

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

中根善明

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和 5年 11月 24日提出

活動年月日	令和 5年 7月 20日 (木) ~ 7月 23日 (日)	
氏名	中根善明	
用務先 及び 内 容	1	用務先 移動日
	7月20日	内 容
	2	用務先 岡山県 西粟倉村
	7月21日	内 容 「百年の森林構想」、「環境モデル都市」、「地域おこし協力隊」について
	3	用務先 岡山県 岡山市
	7月22日	内 容 第65回自治体学校in岡山
	4	用務先 岡山県 岡山市
	7月23日	内 容 第65回自治体学校in岡山
備 考		

政務活動調査報告書

調査日	2023年7月20日(木)～7月23日(日)
場所	岡山県西粟倉村 西粟倉村役場にて
内容	西粟倉村視察

1 日目 初日は移動のみ

2 日目 西粟倉村

【視察】

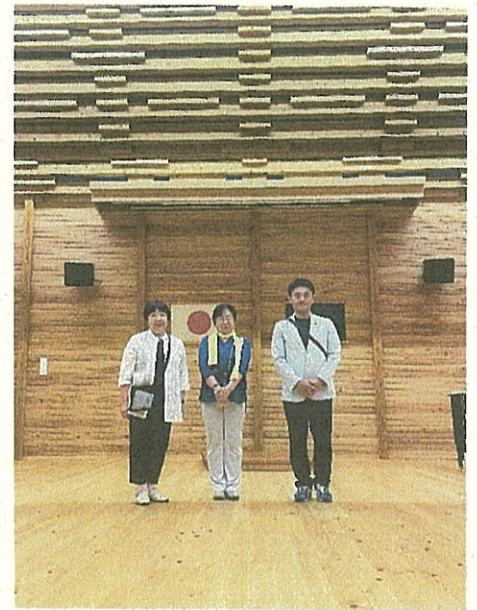
9:30～12:00

『百年の森林構想』について

13:00～17:00

『環境モデル都市』について、『地域おこし協力隊』について

【担当】 産業観光課



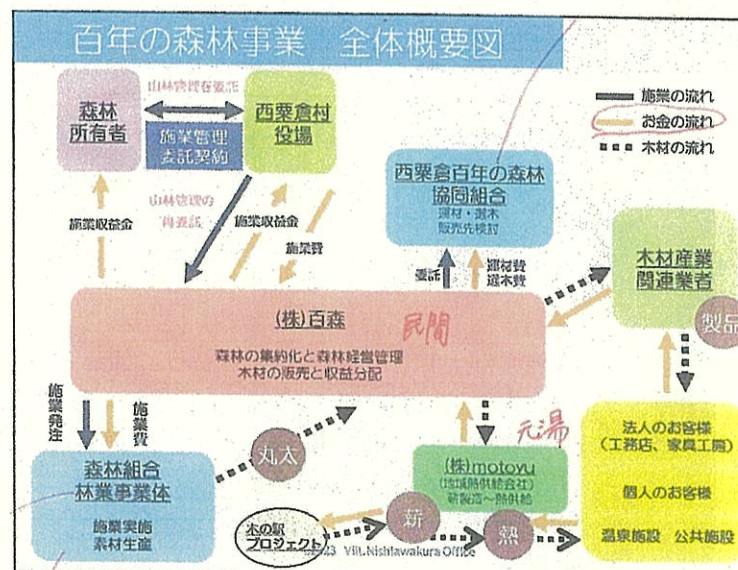
西粟倉村議会にて

西粟倉村

【概要】

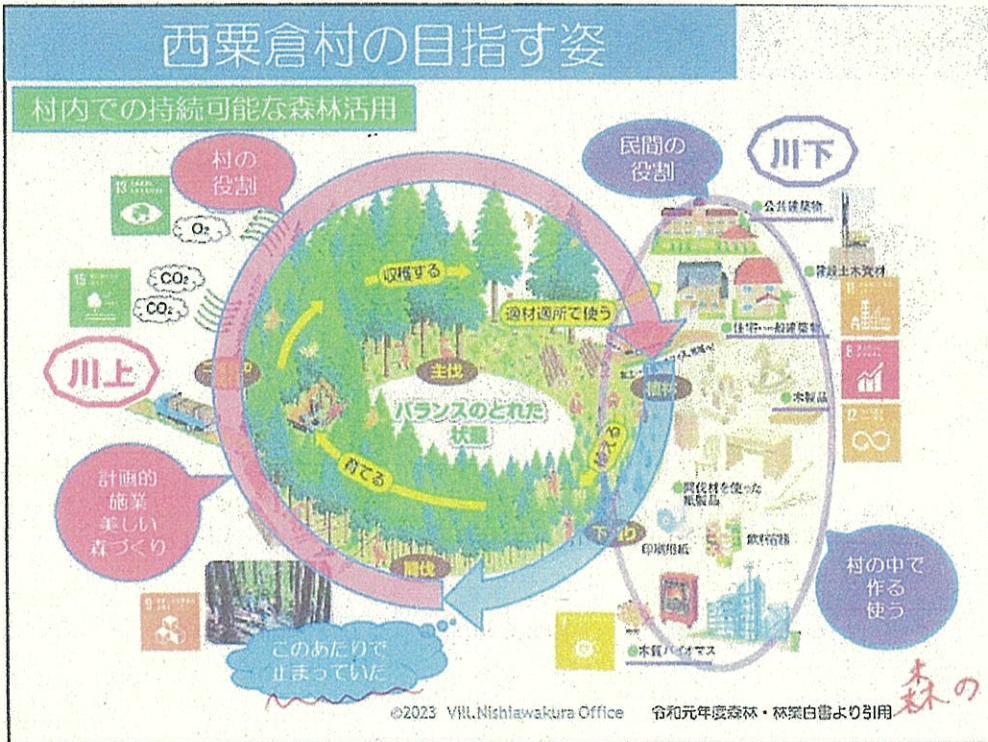
西粟倉の村が「百年の森林構想」を中心に成り立っている

西粟倉村は人口 1,354 名、592 世帯、高齢化率は 37.4% (2023 年 3 月 31 日現在) 面積は 57.97 km² ですが森林が 93% (人口林は 84%) を占めております。平均気温は 11℃、年間平均降水量は約 2,000mm。予算は約 41 億円。2004 年に住民アンケートにより合併しないことを決断しました。村として自立していくために何をするかを検討する必要があった。2007 年に地域外から人材を獲得する取り組みを開始しました。森の学校設立、環境モデル都市選定などを始めて、2022 年には脱炭素先行地域に選定されました。



『百年の森林構想』

約 50 年生にまで育った森林の管理をここであきらめず、村ぐるみであと 50 年がんばろう。そして、美しい 100 年の森林に囲まれた上質な田舎を実現していこう。森林事業は心と心をつなぎ価値を生み出していく「心産業」、村の資源である森林から産業を、そして仕事を生み出していこう。という決意が詰まっている。木材をとことん利用した村づくり



目指す姿は上の図のような循環を目指している。

循環は「育てる」→「収穫する」→「適材適所で使う」→「植える」を目指している。

まずは森林施業の計画、団地の設定をする。森林作業道の開設を始めています。2022年度実績は9,804m。森林の間伐をした面積は57.07ha。間伐した木材の流れは森の学校（村

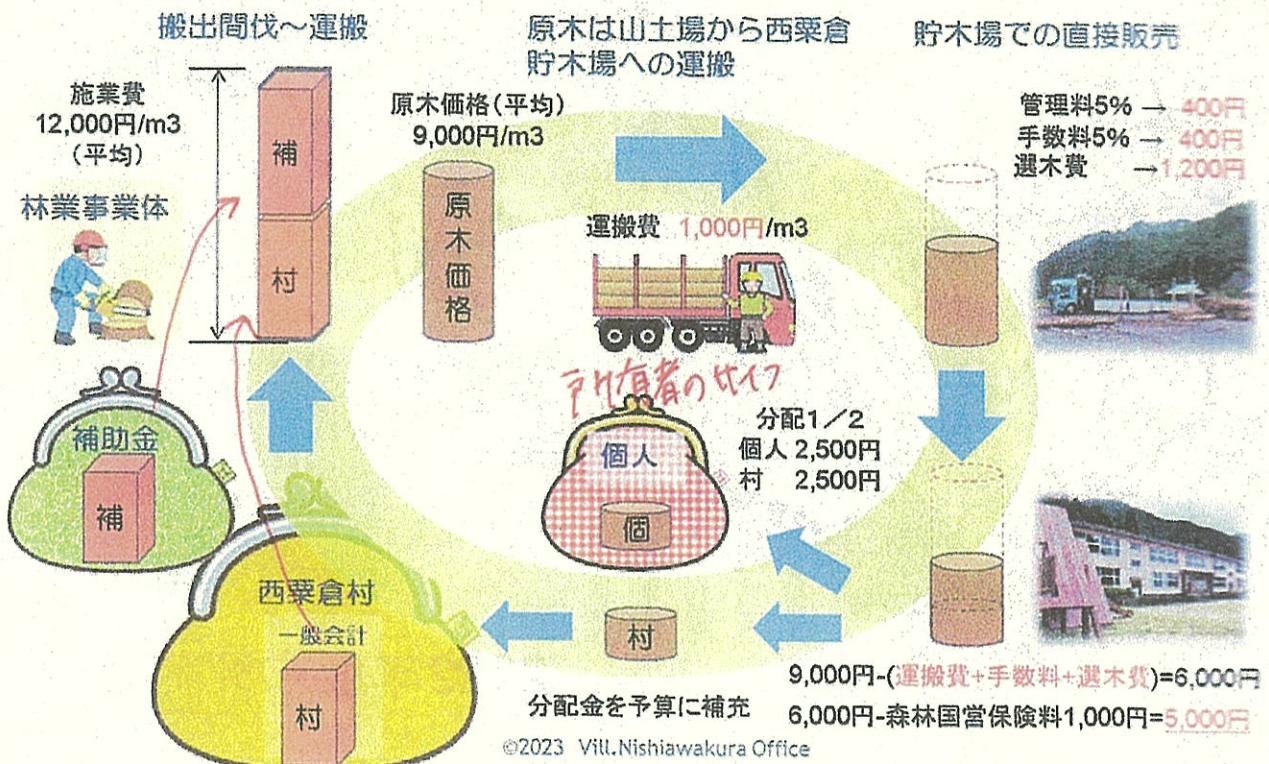


- 【現在の木材販売方法】
- ・市場中心の販売から、貯木場での直接販売
 - ・流通コストの削減、需要に合わせた販売
 - ・組合で検寸を行い、材質に応じた売り先へ
 - ・(森の学校等地元製材工場への販売が利益が大きい)
 - ・(H26から木質バイオマスの活用)
 - ・輸出コストに合わないW地産材を積極的に搬出
 - ・〇村は村内でバイオマス利用

内)、大手製材工場、薪ボイラー燃料温泉 2 施設（村内）で利用されます。そして、間伐材の販売によって所有者へと間伐材の収益が還元されます。原木価格が 9,000 円から手数料を差し引いて 5,000 円。5,000 円の半分を所有者へ、半分は村へと還元されます。施業費用から考えれば原木を販売しても村にとっては利益はできません。しかし、村内では 100 名以上の雇用が生まれて、関連企業の総売上高は 1 億円から 1.1 億円になりました。村にとっては利益になる流れが少しずつできあがっています。

⑤収益の分配

間伐材販売収益が還元されるまで（イメージ）



『環境モデル都市』

脱炭素先行地域の取組として、小水力発電所 2 箇所（めぐみ〈290 k w〉、みおり〈199 k w〉）木質バイオマス

- ① 薪ボイラー
- ② チップボイラー
- ③ 小型ガス化発電

をすでに始めております。今後の取組としては森林整備、新エネルギー事業会社設立、国産再エネ設備調達を目指しております。

『地域おこし協力隊』

上質な田舎を実現するローカルベンチャー 協力隊制度の活用を目指している。村内にある

願いを実現させる売上10億円の最初の立ち上げは協力隊が実現しました。2006年から始まったローカルベンチャーの増殖で人口が1400人に満たない小さな村でこれまでの16年間で55の事業が生まれました。地域に豊かな彩りと多様な生態系が生まれつつある小さな可能性が見えてきました。企業に入る前提で協力隊を立ち上げていきます。村が業務委託という形で協力隊を活用できている。

brighten our forests,
brighten our life,
brighten our future !!

岡崎市との比較

	岡崎市（額田町）	西栗倉村
人口規模	約8,000人	約1,300人
面積	160.27km ²	58km ²
協力隊員数	2	48 (30人)
任用形態	委嘱（委託？）	業務委託、委嘱など
報償費	月額20万円	月額24万円～
活動場所	額田地域内	原則村内、受入企業他
募集など	年1回程度（行政）	審査会（行政）、募集（民間）
活動内容	RMO、広報、コミュニティ等	ミッション、提案など様々
おためし・インターン	実施	実施しない

©2019 Nishiwakura office

ローカルベンチャー認定事業者

brighten our forests,
brighten our life,
brighten our future !!

ローカルベンチャー認定事業者

brighten our forests,
brighten our life,
brighten our future !!



- 2019 JPチャンネル**
松尾洋平さん
DIY YouTuber 村内の物件をDIYでリノベーション。その様子をYouTubeにアップ。
- 2019 R-加藤野イ・アディター**
堀田有弥さん
ローカルモビリティをテーマに活動。コンサル業務や地域モビリティ白書を制作。
- 2019 おさじ**
舩岡桃子さん
お母さんを応援する、手づくりスーパとおやつの販売。得志、カフェを開業。
- 2019 こじか助産所**
堀田敦子さん
産前・出産・産後をケアできる助産所を開所。一人ひとりに向き合ったケアを提供。村の子育て事業にも参画。
- 2020 SAOL**
野田沙織さん
絵巻物+ノッティンク。廃棄される余り糸を活用した織物製造。
- 2021 Social Animal Bond**
青木潤一さん
教員時代に行ったスクールドッグを全国へ広めるべく、百鬼夜行で動物介在教育の実践・事業化に取り組む。



- 2015 UKIYO**
山口千夏さん
子どものオーガマイド曜日
- 2016 株式会社百森**
中井野太郎さん、田畑直さん
百年の森林事業農産物加工・販売・新事業
- 2016 NPO法人**
じゅ〜く
大槻由尚さん
障がい児の放課後デイ
- 2017 にしあわくらモンテッソーリ子どもの家**
岡野真由子さん、モンテッソーリ教育
- 2018 波谷カバン**
波谷 登さん
村で生産された乾草を使ったカバン、小物の高品質化

©2022 Nishiwakura office

【所感】西粟倉村

西粟倉村は名城大学の井内教授が西粟倉村での成功は地域おこし協力隊がカギだったということを知っていたところに、脱炭素先行地域にも選ばれていたことで岡崎市の施策としても見習うところが多いと思い視察先として選びました。まずは村が合併せずに自立の路線をとったところから村役場はもちろんです、住民も含めてどうやって村を生かしていくかを考えたところに特徴があると感じました。そして、先人たちが残してくれた森林を活用していくことを中心に据えた「百年の森林構想」を始めたことが結果的に環境にもやさしいことになり、脱炭素先行地域に選ばれることになったと考えられます。百年の森林構想がもたらしたものとして、地域おこし協力隊があるとも考えます。村の外から人材が集まってきて、村内の課題を解決するという流れができあがりました。西粟倉村の立地条件は決して恵まれているとはいえないものの、人が集まる仕組みさえあれば人が集まってくるのが証明された良い例だと考えます。人をひきつけるのは循環型に徹した百年の森林構想の理念だと考えます。ナンバーワンを目指すのではなく、オンリーワンを目指した結果人も環境も良いものが出来上がるまさに好循環の都市の例を勉強することができました。岡崎市も脱炭素先行地域として学ぶ部分が多いので、これからの市政に生かしていければと考えます。

調査日	2023年7月22日(土)～7月23日(日)
場所	岡山県岡山市 岡山市立市民文化ホール
内容	自治体学校 in 岡山

3日目

岡山市勤労者福祉センター

【記念講演①】12:30～14:50
『地方自治と地域 この1年から考える』

【講師】

奈良女子大学教授 中山徹

【概要】

厳しさを増す自治体をめぐる状況

・1年を振り返って

昨年は安保三文書の改訂がありました。



軍事費を2倍にする社会保障改革。

- ・少子化対策

こども未来戦略方針は日本の少子化が想定以上に進んでいるのをどう打開するのか。

非正規雇用が増えていて、こどもを産んで育てることが極めて困難になっているからです。少子化対策への財源を確保するのが、収益を上げている大手企業とか富裕層に対する課税はなく、社会保険料に上乗せするなど国民負担を拡大するような財源確保をしようとしている。

- ・自治体で今起きていること

自治体DX、地域医療構想、公共施設等総合管理計画、立地適正化、小中一貫校という市民生活に大きな影響を及ぼす国の方針を受け入れている。

小学校の数は2000年には全国で23,000の小学校が直近は18,000へ、公立保育園は2000年には13,000あったのが、直近は7000まで減っている。

- ・出生率は？

合計特殊出生率は2014年は1.42、2022年は1.26、このままだと日本は今世紀末には5000万人ぐらいまで下がると予測される。

- ・どうすれば自治能力の高い市民を育成できるか

まちづくりの最終目標は人づくり。地域に関心をもって地域をよくするために共同で取り組む人を作る。言い換えると自治能力の高い市民をつくる。どうやってつくるか。人は実践を通じてしか成長しない。実践の輪を広げることが大切。

【記念講演②】14:50~16:00

『地域の主権を大切に、ミュニシパリズムの広がり』

【講師】

東京都杉並区長 岸本聡子

【概要】

- ・投票率数%の上昇で政治の景色が変わる

杉並区では今年4月の区議会議員選挙でパリテを実現しました。48人の定数のうち女性が24名となりました。投票率は43.66%と高くないものの、前回よりも4.19ポイント上昇しました。上位4名は全員新人女性でした。

- ・ミュニシパリズムの戦略

「地域主権という希望」という本に紹介されておりますが、「これから杉並区で取り組もうとしている変革が、世界規模の大きな潮流の中にあるものだという事を区民に限らず、全国みなさんに知っていただきたいからです」と語られております。具体的には「公共」の役割を取り戻すこと。地域の住民が主体となって、自分たちの税金の使い道や公共の財産の役立て方を民主的な方法で決めていくということです。本来は公共の財産であるはずのものが

次々に民間に委託されて、営利の理論で支配され、人々の生活を圧迫するといった問題が相次いでいます。

・土台になるのは運動

3つの柱がある。

1つは社会運動、市民的な運動、自治の運動。

2つは地方自治の力を取ることに

3つは地域経済を実装すること

アメリカでは「ウォール街を占拠せよ」「私たちは99%」

ヨーロッパでは「怒れる者たち」などの運動がスペインを中心に、イタリアなど南欧、フランス、イギリスにも広がりました。

また、「#Me too」運動や「ブラックライブズマター」、「気候のための学校ストライキ」などに運動が広がっています。

・自治体職員は本来は住民と一緒に地方自治をやっていくこと

自治体職員は国が決めた方針を確実に実行するわけですが、逆を言えばそこに縛られている人もたくさんいる。国が進める方針が今ある問題に対して解決に向けて動いてくれている場合はいいですが、必ずしもそうではない場合がある。その時は自治体が率先して問題を解決する方向に動いていく必要があります。そういう意味ではやはり時間をかけて職員たちと共に学んでいくことが重要です。この20年間で正規職員が削減されて、非正規の会計年度任用職員に置き換わってきたことに問題がある。行政職員には創造力や専門性がないから民間にお任せすればいいという考えが刷り込まれている。

【リレートーク】16:00~16:50

『地域と自治体最前線』

「奈義町の子育て支援の到達と課題」

【講師】

森藤政憲（奈義町議会副議長）

自治労連 小川さん

備前市議会議員 中西裕康

【概要】

最低賃金を1500円にしたい。月額最低でも30万円にしたい。そうでないと結婚して、子どもを産み育てられない。任用職員の身分が守られていない。マイナンバーカードに紐づけられることで学校給食が無償になるのはおかしい。学校側から一方的に通知をしてきた。などの発言がありました。

